

令和 7 年 5 月 29 日

## 令和 6 年度 大分工業高等専門学校アセスメント報告書

自己点検・評価実施委員会

大分工業高等専門学校（以下、本校と称する）アセスメント報告書は、本校が定める教育目的、学習・教育目標、入学者の受入に関する方針（AP）、教育課程の編成及び実施に関する方針（CP）、本校の卒業・修了の認定に関する方針（DP）について、アセスメントプランに則り、機関レベル・教育プログラムレベル・授業レベルにおいて多層的・多面的に評価し、その結果を改善につなげるためのものである。

以下に、各アセスメントについてまとめる。

### 1. MCC 対応表・カリキュラムマップ

教育プログラム委員会における改善項目に基づき、MCC 対応表および教務部委員作成シラバスチェック表を点検し、MCC の全ての項目が必修科目でカバーされており、かつ設定した達成目標およびレベルに鑑みて授業の実施方法や達成度の評価方法が適切に定められていることを、全学的に確認を行い、一部確認・修正が必要な部分は3月31日までに修正後のファイルを教育支援係へ提出することと了承された。

（令和 6 年度第 6 回教育プログラム委員会 令和 7 年 3 月 27 日（木）開催）

### 2. 卒業生・修了生アンケート

審議の結果、集計結果の各項目における確認と分析を次のとおり行った。就職先企業やその業種が、本校の教育プログラムの内容で適していることを確認した。また、本校の学習教育目標や育成する人材像の設定について、数値評価上で問題は無かった。

学習・教育目標 C2 英語を用いたコミュニケーションは、例年、他の項目と比べ、数値が低い状況が続いているため、カリキュラムの見直しも含め対応を検討することについて意見があった。

（令和 7 年度第 1 回教育プログラム委員会 令和 7 年 4 月 30 日（水）開催）

### 3. 卒業生アンケート（高専機構実施）

教育プログラム委員会委員長から資料に基づき、高専機構が実施した本科卒業生及び専攻科修了生アンケート結果の分析の説明があり、全国高専平均に比べ、おおむね学生自身が学習や研究活動等に達成感を感じていることが確認された。

（令和 6 年度第 2 回教育プログラム委員会 令和 6 年 10 月 31 日（木）開催）

#### 4. 教育プログラムアンケート

教育プログラム委員会委員長から、回覧資料により、令和6年度教育プログラムアンケート結果から学習・教育目標および教育支援システムの見直しの必要について確認があり、学生の評価およびコメント等から学習・教育目標および教育支援システムは適切であることが確認された。

(令和7年度第1回教育プログラム委員会 令和7年4月30日(水)開催)

#### 5. 学習・教育目標達成度自己評価チェック表

教育プログラム委員会委員長から、資料4に基づき、令和6年度学習・教育目標の達成度評価チェック表の各学年の分析について、概ね5段階中4前後の評価であることから、本校の学習・教育目標は達成できていることが確認された。

学習・教育目標 C2 英語を用いたコミュニケーションについては、達成度評価が低かったため、カリキュラムの見直しも含め対応を検討することとした。

(令和7年度第1回教育プログラム委員会 令和7年4月30日(水)開催)

#### 6. 授業点検シート B

教育プログラム委員会委員長から、令和6年度のエビデンス部会責任者最終確認会議における授業点検シート A の提出状況等の確認ならびにエビデンスチェック(授業点検シート B)について報告があり、授業および成績評価の実施が適切に行われていることを確認した。

(令和7年度第1回教育プログラム委員会 令和7年4月30日(水)開催)

#### 7. 入学者アンケート

入学者アンケート結果より、アドミッションポリシーに適した学生を入学させていると判断できていることを確認した。

(令和7年度第1回入学試験委員会 令和7年5月12日(水)付けメール審議)

専攻科運営委員会委員長から、資料に基づき専攻科生の成績や修了状況など説明があり、過去3年間について特に問題なく、良好であることを確認し、学習到達目標を十分に達成し得る学生が入学していることを確認した。

(令和7年度第1回専攻科運営委員会 令和7年4月23日(水)開催)

#### 8. 進級率・卒業/修了率

教務部委員会委員長から資料1に基づき、過去5年の進級率/卒業率、資格取得・受賞・学外発表数について説明があり、年次変化について確認を行った。

学業成績優秀賞・努力賞について近年増加傾向にあることから、受賞要件について再検討することとした。

(令和7年度第1回教務部委員会 令和7年5月1日(木)開催)

専攻科運営委員会委員長から、資料に基づき専攻科生の成績や修了状況など説明があり、過去3年間について特に問題なく、良好であることを確認し、学習到達目標を十分に達成し得る学生が入学していることを確認した。

(令和7年度第1回専攻科運営委員会 令和7年4月23日(水)開催)

## 9. 資格取得・受賞・学外発表の状況

教務部委員会委員長から資料1に基づき、過去5年の進級率/卒業率、資格取得・受賞・学外発表数について説明があり、年次変化について確認を行った。

学業成績優秀賞・努力賞について近年増加傾向にあることから、受賞要件について再検討することとした。

(令和7年度第1回教務部委員会 令和7年5月1日(木)開催)

## 10. 進路状況

進路指導委員会委員長より、進路先の状況からみて教育目的・DP(卒業認定・学位授与の方針)が達成されているかについて確認があり、各学科から令和6年度の状況報告があった。

機械工学科 例年どおり。半導体関係、九州地区採用が増えた。各分野に就職できている。

電気電子工学科 例年どおり。就職6:進学4。半導体関係が増えており、大分で就職する学生が増えた。

情報工学科 進学18:就職15と例年どおり進学が多い。成績が良くない学生の進学希望が増え、他高専の専攻科に進学している。就職は情報系が多く、首都圏に就職する学生が多い。なお、半導体関連企業に就職した学生は3名。

都市・環境工学科 進学14、その他は就職。スーパーゼネコン、準スーパーゼネコン、大手コンサルタント、日鉄関係、公務員が多く、自営業を除いて全体的に土木部門が多い。業界は人手不足とのこと。

専攻科 機械・環境システム工学専攻 20名中4名大学院進学。就職先は公務員、建設関係、半導体が中心。

専攻科 電気電子情報工学専攻 11名中6名大学院進学。就職先は情報系が多く、大半は希望先に就職できている。

以上の報告からどの学科・専攻も教育目的・DPが達成されていることを確認した。

(令和7年度第1回進路指導委員会 令和7年4月17日(木)開催)

上記アセスメントの実施結果より、令和7年度の入学生は本校が定める教育目的、学習・教育目標、入学者の受入に関する方針(AP)に適した学生を入学させており、教育課程の

編成及び実施に関する方針（CP）、本校の卒業・修了の認定に関する方針（DP）も適切に設定されているものと判断できる。

アセスメントの結果については、学校運営委員会の議を経て教員会議および本校ホームページで報告する。